

当院の整形外科・リウマチ科がサンデー毎日に掲載されました。

サンデー毎日 11.6 増大号のサンデー Excellence 医療新世紀 2011 のページに当院・整形外科・リウマチ科の人工関節置換術が紹介されました。

シリーズ 医療新世紀



整形外科医からのひとこと

① 乾 健太郎 (いぬいけんたろう)
運動器の痛みを伴う疾患がリウマチ性疾患であり、これを外科的に治すのが整形外科です。近年、関節リウマチの薬物治療が飛躍的に進歩してきており、期待される結果も大きく変わってきました。その中で人工関節置換術の位置づけは重要であり、当院は最新の薬物療法と並行して、各種の人工関節手術が可能であることが特徴です。

② 大塚 誠夫 (おおはただけお)

外傷の手術が多いのが当院の特徴です。中でも骨折症を扱った大塚専任症例報告の方が多く、年間約200例(2010年4月～11月31日)の手術を行っています。早期に手術を行い、早期退院を目指します。地域連携クリニックバスを使用して急患搬送された患者様(42歳)の手術などでの活躍もスムーズに行っています。

④ 佐々木 徹介 (ささきとけいすけ)

整形外科の医師の中で、医療スタッフの研修員としても高い評価をいただく研修医と見られます。スタッフのチームワークが取れている中で医療に専念できます。私は手術を担っており、現在、マウス操作ソフトに關して研修を積んでおります。患者様に「ありがとう」と言ってもらえることが何より嬉しいです。

③ 堀口 公一 (さかぐちこういち)

運動器疾患の薬物もかかえた患者様の日常生活動作(Achievements of Daily Living)を早期回復させていくのが整形外科のやりかたです。私自身も、私は生体上肢の外傷を担っており、治療が上手い手、患者様が笑顔で退院されることに一番の喜びを感じます。

⑤ 冨本 健司 (とのもとけんじ)

当院では最新の専門分野が強化されているので、患者様により良い治療を受けていただくことができます。医師にもっとも大事なのは専門分野に精通することです。リウマチ科では、総合的な外科手術を担っていますが、多くの症例を手がけて手術経験を積み、より良い医療を提供したいと考えています。

⑥ 川崎 健 (かわさきけん)

手術全般の治療を担っています。当院では外傷や慢性疾患で多量な手術に対応しており、患者様に負担をかけることなく治療できるように心がけています。コンフォランスでも積極的に意見交換し、ベストの治療を目指しています。この取り組みの成果もあって、チーム医療の進んだ病院だと思っています。

理想的なチーム医療体制が治療の質を高める



乾 健太郎 (いぬいけんたろう)

大阪府立大学医学部卒業。医学博士、日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本整形外科学会認定リウマチ科専門医、日本リウマチ学会常務委員、日本整形外科学会常務委員、中野日本整形外科学会常務委員

過度な運動や加齢または炎症 齢者や、同時に数カ所の関節が により、骨や軟骨が変形・破壊 侵される関節リウマチ患者に されると、関節が本来持つとい とって、問題は一番深刻なもの となる。一度破壊された関節軟 骨は決して自然治癒による回復 が望めないから、日進 元々歩行機能が低下している高

月歩で進化を続ける人工関節を 用いた人工関節置換術である。 日本では約30年前から行われて いるが、材質や形状の改良が進 んだ現在の水準は以前とは比べ るべくもない。 「人工関節置換術は機能回復 が目に見えて得られる治療です。 人工関節を使用しております。股 関節に対しては、人工関節を埋 め込んだ後に骨の成長によって 自然に結合させるセメントレス という方法を使います。これによ り、セメントを使用した場合 のデメリット、つまり、血圧が 下がったり、再置換が非常に困 難になるといった問題を防いで

ます。膝関節に関しては、で きるだけ軟部組織等を保存し、 不必要な侵襲を加えないように 細心の注意を払い、より早い機 能回復を目指しております。股 関節、膝関節以外にも、肩、肘、 さらには指などの治療で人工関節 を用いることができます。関節 リウマチをはじめ、複数の関節 に疾患をかかえる患者様も当院 のみで治療を完結できるという

痛みを取って機能回復を期待できる人工関節

メリットがあります。また、救 急医療も当院で取り扱う大きな 分野です。特に、近年増加傾向 にある高齢者の大腸骨近位部骨 折では、できるだけ早く元の生 活に復帰することが重要です。 手術治療後は翌日から立つ歩 くに慣れ、リハビリを進め、退院後 は地域連携バスを通じて、在宅 までのシームレスな医療管理を 進めています」

乾先生による人工関節置換術の様子。正確さを追求した上で可能な限り侵襲の少ない手術を目標に

サンデー Excellence

医療新世紀2011 クローズアップ整形外科 多部位に対応する 人工関節置換術

医療法人橋会 東住吉森本病院
整形外科リウマチ科部長
乾 健太郎 先生

禁煙外来スタートしました。

2011年10月1日より当院は施設内禁煙を実施いたしました。それに伴い、禁煙外来をスタートいたしました。是非、ご利用ください。

禁煙外来
スタートします！
毎週 火曜日・金曜日
呼吸器内科にて実施
受付時間 8:30 ~ 11:30

平成 23 年度救急隊症例検討会開催

去る 2011 年 10 月 7 日 地域の救急隊の皆さんを対象に症例検討会が行なわれました。当院より消化器内科内視鏡部長・仲川先生、脳神経外科医長・磯野先生、ICU 部長・西田先生が臨床の指導助言を行ないました。



第2回 大阪市南部地区医療講演会

去る2011年10月20日、地域医療機関の先生方を対象に第2回大阪市南部地区医療講演会が開催されました。当院で扱った症例とその治療アプローチを各科専門の先生が、写真・動画などのエビデンスを使い、解説しました。

整形外科からは、川端先生が「当院における手外科診療の現況－特に手術症例に関して－」という題名で講演しました。手外科の守備範囲からその治療方法（保存的治療・手術の種類）、術式のトレンドを説明したうえで、橈骨遠位端骨折の関節鏡手術の成功例について動画にて解説。また橈骨遠位端骨折変形治癒と舟状骨偽関節の難治症例や、変性疾患である関節リウマチについても解説がありました。

循環器内科 宮崎先生は、「どう使う？心臓エコー；当院における実際」という題名で講演しました。「心不全や心筋梗塞の診断に心エコーをどう使うか？」「いつ経食道心エコーをオーダーすべきか？」など画像を中心に日常よく遭遇する状況を想定した実践的なレクチャーが展開されました。また負荷心エコーや冠動脈エコーによる狭心症の診断、血管エコーガイドによる下肢動脈形成術といった、当院ならではの高度な心臓エコーの利用法についても実際の施行法や現況を提示しました。

消化器内科からは、肝胆膵内科部長・藪さこ先生が「肝がんの早期発見・早期治療－がん診療拠点病院としての役割－」という題名で講演しました。全国的に見て西日本に多く見られる肝がんの統計や肝炎ウイルスの話、発生のメカニズムを詳しく説明し、その治療適用をアルゴリズムで提示。治療方法に関しては外科的手術、TAE、PEIT、PMCT、RFAなどの解説がありました。

当院、副院長・がん診療センター長 田中先生は、「急性期から終末期医療までの総合的な地域完結型がん診療を目指して－がん診療拠点病院としての取り組み－」という題名で講演しました。がん診療拠点病院としての当院の取り組みを大阪府の部会活動なども含め報告し、南部地域での当院の積極的ながん診療体制をアピールしました。また当院の得意分野でもある腹腔鏡下大腸がん手術や肝転移に対する肝切除術について詳しく解説がありました。



第14回 東住吉ハートカンファレンス

去る2011年8月27日、第14回東住吉ハートカンファレンスが開催されました。今回の東住吉ハートカンファレンスは、研修医や、呼吸器内科からの発表がありヴァリエティーに富んでおりました。当院研修医より高田先生、寺川先生がそれぞれ「心不全で入院した心房中隔欠損の一例」、「重症大動弁狭窄症と中等度僧帽弁閉鎖不全症による心不全の一例」というタイトルで発表し、経皮的カテーテル心房中隔欠損閉鎖術や心臓血管外科手術適用の話題について述べました。続いて八木先生より「肺塞栓症の一例」について症例検討があり COPD 既往がある 80 歳女性の肺塞栓症の症例を中心に抗凝固療法や IVC フィルターの適用などについて詳しく解説しました。急性肺血栓塞栓症は急性期を乗り切れば予後は良好のため早期診断治療が最も重要であることも述べました。後半の講演では4月より新設された呼吸器内科・伴先生より「COPD 傾向と対策」という内容で講演がありました。COPD の定義から始まり、スパイロメトリーを使った肺機能検査による診断、薬物療法や重症度に応じたリハビリテーションの選択、増悪期、安定期の管理など全身疾患である COPD を系統だてて解説しました。講義の締めくくりとして「傾向と対策」というタイトルから参加者への簡単(?)な問題と回答といったユニークな演出で会場を盛り上げました。



第2回 南大阪末梢循環セミナー

去る2011年10月22日、第2回 南大阪末梢循環セミナーが開催されました。今回は、末梢動脈疾患 (PAD) について心臓血管外科、循環器内科の両側面から講演がありました。

当院 心臓血管センター 心臓血管外科 部長・南村先生は「当院での末梢動脈疾患 (PAD) の外科治療経験」という内容で講演しました。当院で行った末梢動脈疾患手術症例を報告し 発熱 臀部痛で診断された感染性遺残坐骨動脈瘤に対する非常に稀な手術例や 急性下肢虚血をきたした両側膝窩動脈瘤の手術症例について講演しました。

特別講演として兵庫医科大学 内科学 内分泌・代謝科 准教授 小山先生からは、「末梢動脈疾患 (PAD) を内科的にどのように管理するか!」という講義がありました。早期発見が比較的困難な PAD についてそのリスクファクターを解説し、PAD 危険因子の管理方法をアルゴリズムで示されました。また、糖尿病、腎不全 に共通した病態関連因子 AGE とその受容体 RAGE についての最新の研究状況を報告されました。



第15・16回 知って得するよもやま塾

去る2011年7月29日当院の講堂にて『第15回 知って得するよもやま塾』を行ないました。当院・循環器内科・医長 金森先生より「知って得する不整脈のはなし」、不整脈のメカニズムやその治療について解説。栄養管理科・岩谷 聡主任より「知って得する減塩のはなし」といづれも日ごろ気になるトピックについてわかりやすく講義がありました。



同じく2011年10月5日の『第16回 知って得するよもやま塾』は、当院・形成外科部長 辻口先生が「形成外科って何？」という内容で講義、当院で扱った衝撃的な症例の数々を爽やかに解説。形成外科の技術力を実感いただきました。看護ヘルスケアチームより「ノロ対策について」を講義。ノロウイルスが発生した頃の話からその対策までを一般の皆さんにわかりやすく解説しました。当日は、多数来場いただき、大いに盛り上りました。



キャンサーボード実施

キャンサーボード (cancer board) とは、がん診療に関わる内科系、外科系、診断学系の医師、看護師、薬剤師、理学療法士、事務系職員などの専門職員が職種を超えて集まり、がん患者さんの状態に応じた適切な治療方針などについて意見交換・共有・検討・確認等を行うカンファレンスのことです。当院でも定例カンファレンスとして2011年7月29日よりスタートいたしました。



平成23年度 東住吉森本病院大規模災害訓練

去る2011年10月23日(日)、毎年恒例の病院大規模災害訓練を実施いたしました。「平成23年10月24日(月)午前9時35分、上町断層にM7.0直下型地震発生、震源など未発表。」という設定で職員182人が参加しました。実際に始まると想定外のケースが多々発生し、あらためて”備えの重要性”を知りました。当日は大阪市消防局の方々も参加いただき年々クオリティーがあがっているという総評を頂きました。



編集後記

広報室 M

先日、埼玉のこども自然動物園へ行って来たのです。ここは東京・池袋から武東上線急行に乗って50分+バス5分程度の場所にあります、山の中の施設です。珍しい動物や、ちょっと元気の良い動物は檻の中なのですが、比較のおとなしい動物は牧場のような所でくつろいでおり、一般の私たちも中に入って触れることができます。仔ヤギや羊など、人間に慣れていて大変カワイイのですが、珍しい系でビックリ(;´∩`)/したのは、写真のミーアキャットでした!! Youtubeでしか見たことがないレアさに感動、、見入ってしまいました。(しかも彼ら、ホントに穴ぐら住まいでした!)

学会など関東方面に行かれた際は、気分転換に足を延ばされてみてはいかがでしょうか?>

